

4. 『一期一会』を振り返って

昭和41年 卒研生 鈴木 威一

2005年1月20日 第1回の一期一会は50名ほどの参加者を集めて銀座交詢社10階会議室で行われました。講演のタイトル「南米事情」の講師は元(貿易庁)通産省事務官。その後ベネゼーラ政府顧問などをされ、現在山本株式会社 会長の山本和男さんでした。山本さんは、役所時代は白洲次郎氏の直属の部下であり、白洲正子さんにも何度か会っており、吉田茂氏が首相時代は特によくお目にかかったそうです。今で言えば超エリートに当たる人が、役所を飛び出して南米に移住し、新しい国作りに参画された話である。日本の国が南米移住を奨励していた時代であったことでもあり、小説のようなわが国近代史の一部を生々しくお話いただいた。

・ 一期一会を始めた動機

一期一会を始めたその日の1年ほど前、私はオランダのグローバル企業 Philips のアジア地区担当の副社長として、事業再編の大きなうねりの中で、20万人近い大きな電子部門を、事業統合、事業売却、業務提携、工場閉鎖、リストラ、人員再配置など大きな仕事をほぼやり終え、自分の担当していた部門を解散したところでした。

精神的にも肉体的にも、全力疾走した後だったので、疲れがピークだったのかも知れません。

そして残務を処理しながら、次の Key である半導体部門の生き残り作戦をお手伝いしながら、6月定年退職の時期を迎えました。会社側からは関連企業への転職斡旋も提示してくれましたが、民間会社では有りますが、天下一にに近い形での仕事の選定は私の生き様に反すると考え、(青臭い青年のようだなーと、自分でも思いながら)個人的友人2人を誘い、家内にも参加してもらって、小さなコンサルタントの会社を作りました。しかし折角定年まで働いて来たので、仕事以外の事で、今までに挑戦してみたかったことを何か始めたいと考えました。

そんな経緯から、今までの人生で自分が学んだ事を次の世代に伝えたい、私が尊敬する個性的な行き方をしてきた人生の達人にお願いして、ご専門のお話では無く、生き方に関わる話を毎回講義して戴く、その際は損得で無く自分とこの会の趣旨を理解してくれる方のみをお願いする、私も含め全ての活動はボランティアを原則とし、参加者にも実費程度は負担をお願いする、規模を大きくせず、内容は質の高い一流の会にする、今までの私の人生のお礼の意味も有るので、自分の家族や親戚、親しい友人にも出来るだけ開放し出来れば参加してもらえる分かり易い会とする、と考えました。

その会合に“一期一会”の名を付けては、と私に助言した名付け親は私の次男です。

約10名の世話人が居ます。この方はボランティアで、世話人として毎回出席し、色々助けてくれている方です。昔からの友人、会社の仲間、心許せる理解者、などが成ってくださり、家内、長男も世話人の一人として多忙な中、全面的に毎回助けてくれています。

それが“日本を元気にする会、一期一会”発足の経緯であり、仕事の合間で出来る頻度である3ヶ月毎の開催ということで始めました。数回も続いてくれれば上出来とと思っていましたが、多くの方のサポートを戴き何とも来年1月で丸6年に成ります。

最近、世界の最も貧しい国を幾つか訪問する機会を得、物の援助や、哀れみは多くの場合人を駄目にする事実にも、直面した。人の国の中に手を突っ込んで偉そうに援助をするのでは無く、まず日本人一人一人が平和で世界の誰からも尊敬され、真似をしたくなるような民族になることこそが、まず我々がやる事ではないかと痛感したのです。それがどれだけ低開発国の人たちを勇気付けるかを、知りました。

そこで、今年から一期一会のホームページの冒頭に『～日本を他国からも尊敬される、世界一良い国にする為、皆で考え、自分に出来る小さな事から実行しよう～』と述べさせて頂いています。

・ 多くの方の協力

この度、今井先生よりこの会についてのまとめを書いてみるようご提案戴いた。やり始めてみると反省と、お世話になった本当に多くの方の顔が浮かんできます。講師はもちろん、世話人の方、毎回お手伝い下さる皆さん、交詢社のスタッフの方、そして毎回参加して下さるサポーターの皆さんなどです。

今までの講師のお名前と講演タイトルとご経歴をまず述べてみて、それにそれぞれの講師のお話された講演概要と講演者のモットーとしている座右の銘を私の独断も入れながら簡単に述べてみたいと思います。

(1) **山本和男さん** 山本株式会社社長、元 ベネゼーラ政府顧問

「**南米事情**」というタイトルでお話いただいた。第1回目ということもあり、.の章で多少山本さんの経歴を述べておきました。前から是非聴きたいと思っていた話でしたのでとても興奮してお話を伺ったことを思い出します。

安定志向で、事なかれ主義的官僚機構に反発し、30歳そこそこで通産省を飛び出し、南米ベネゼーラやトリニダド・トパゴ共和国の政府顧問をしたり、現地法人を経営したりしてベネゼーラ国籍も取得し事業も大きく拡大したものの、国の政情不安や家族の問題もあって還暦の頃日本へ帰国し、国籍も戻して貿易会社を経営してこられた。

“人生は1度きりなので安定を志向するのではなく、自分の信じる道を行くことが人間らしい面白い生き方なのだ！！”と言いたかったのでは無いだろうか。

(2) **新 将命さん** 住友商事アドバイザー・ボードメンバー、元日本コカコーラ社長、日本ジョンソン & ジョンソン社長 など 世界企業の経営者を歴任された。

「**ビジネスパーソン・成功の法則**」と言うタイトルでお話戴いた。

成功する人には成功する理由があり、失敗する人には失敗する理由がある、と言う強い確信がおありで、沢山の成功者、失敗者に出会ってこられたことをもとに、ご自身の経験から学んだこととお話戴いた。新さんは経営者向きの講演等を沢山されているお話のプロでも有られるので、冗談を交えたしかし含蓄のある話を伺えた。成功の数式も作って居られ、わかり易いお話であった。



写真1 右から鈴木、新講師、山本講師

“ビジネスで生きる人間にとって重要なのは、

能力を磨く、何時も真摯に物事に向き合う、人間性を磨く、そして誰にでも一生に数回訪れる運命の女神を確り掴む。”と言っておられたと、理解しました。

(3) **宮澤 明さん** イーウーマン 常勤監査役、元 博報堂上席副社長

「**マーケティングはサイエンスかアートか、それとも**」

マーケティングの本質について、東大、ハーバード大学で学術的勉強をされると共に、博報堂で、つまり日本で最初のマーケティングをリードして来たこの分野におけるフロンティアのお話であった。

具体的経験に基づき、会社名も挙げて、マーケティングの成功例、失敗例などを含め、お話いただいた。“マーケティングは人間研究、人間学である” と言い切っておられた。

(4) **坂本 憲一さん** 工学博士、国連大学アドバイザー

「**循環型社会 みどりの地球を次世代へ引き渡そう**」

世界の環境を保全するため、日々活動して居られる坂本さんの話は具体的あり、例示が沢山あり大変わかり易いお話であった。

日本人の一人当たりの食糧消費量はアフリカゾウ1頭が消費する分量と同じである程多いと言う話は、皆さんに無駄の排除をしなければならないと言う、強いメッセージとなった。

“限られた大切な地球を、一人一人が日々の生活の中で心がけ、汚さないようにしよう。” と結論づけられた。

(5) Vic Teeさん MMH社 社長 イギリス人

「文化は万華鏡」

ヨーロッパ、アメリカ、南米、アジアでグローバル企業のマネジメントをして生活してきて、地元にも溶け合いながら多様な文化に深い興味を持ち、参加して来たご経験を元に、何が大切かを話していただいた。各国が持つ文化や伝統に何時も尊敬の眼を向け人々と関わり、企業を運営して来られた。常識の違いを沢山の写真で表現して、具体的に示して下さったわかり易い講演であった。グローバルに仕事をするということは文化を尊重するという事である、とまで言い切っておられた。

“日本の将来は明るいという、理由は膨大な未使用資源がある為で、その資源とは 日本女性。日本女性は能力が高く謙譲であり、世界のトップクラスであるにも拘らずその特性はまだまだ十分に活用されていない” と言う。

(6) 山本正隆さん 工学博士、国際温泉評論家、元 沖データ 社長

「世界の温泉・日本の温泉」

温泉と言うと日本の専売特許のように思っている人が居るが温泉は世界中にあり、人々が楽しんでいる。その具体例を実際に訪ねまわって調べたデータ、写真などを基に、色々なエピソードを御話戴いた。日本の温泉が有名なのは温泉旅館との組み合わせの妙にあるそうで、この真似は海外では殆ど出来ていない。

“経営者も人間。余裕の無い経営者に良い仕事は出来ない。何をしているときも楽しいことを考え、趣味も深め、積極的に楽しもう。” という。

(7) C.Preechawatayakuさん、世界的デザイナー、オーナー タイ人 「チャニタさん」

「アジアのファッションシンデレラ、グローバルビジネスに成るまでを語る」

NHKの国際放送でも特集が組まれたほどの方で、普通のタイ人女性が世界のファッション界でデビューし、僅か十数年で企業を世界に展開したシンデレラストーリーをご本人の口からお話戴いた。現在はパリ、ミラノ、ロンドン、NY、Los、メルボルン、上海、シンガポール、東京はもちろん バンコックなどに店舗を持ち、大成功されている。

わざわざこの講演のため自費負担にも拘わらず、家族同伴で来ていただいた。

穏やかな人柄で、仕事は質の高い世界トップを目指しているながら母親で有り妻であることの大切さ、家族を大切にする姿勢をさりげなく自然体で話していただいた。

日本においても世界の一流品として評価され、普通のブラウスが数万円と高価にもかかわらず原宿や青山、伊勢丹などで売られている。

内容もさることながら殆どの聴衆が、チャニタさんの謙譲で、なおかつその素晴らしいお人柄に魅了された。

“世界を目指すときには高い所にあるものではなく、身近にある素晴らしい技術や伝統を大切に、それを自分の感性で時代に合った形にすれば、人まねではなく個性のある世界に通用するものができる。” と示された。



写真2 チャニタさんご夫妻と娘さん二人

(8) Tim Wangさん Isuppli社 副社長、日本法人社長、台湾系アメリカ人

「中国人との付き合い方」

高校、大学を日本で過ごされたご経験をお持ちなので、流暢な日本語でお話を戴いた。

沢山の日本人と中国人とのお付き合いの中から、日本人が誤解しやすい中国人の行動、日本人が気をつけなければならない点などについて色々具体的なお話を戴いた。

“中国人との付き合いは、人間性を前面に出し、長いスパンでのお付き合いを考えるべきである。又、中国のビジネスマンは行動も早く、判断も早い。しかし日本と同じだけの情報が得られない中で仕事をしている可能性があり、その点も理解して行動する必要が場合によっては有り得る。” と結んでいる。

(9) 前田 裕子さん 工学博士、東京医科歯科大学特任助教授

「～大学と企業の架け橋になって～」

小泉総理の諮問機関である国の知的財産活用の委員もして居られる前田先生に、知的財産活用の実情や問題点について、今後の日本が目指すべき知財立国の考え方と現状との間に余りにも大きいギャップがあり、医学と薬学が抱える知財保護の可能性について言及していただいた。

又仕事をする女性が抱える家庭と仕事の両立などについてもご意見を伺った。

“わが国の大学においては、研究開発とその研究の知的保護について、建前論が先行しており実態が全く付いて行っていない。時間を掛けて研究し、教育していくことが肝心である。”と述べている。

(10) 服部 健一さん 法学博士、アメリカ特許弁護士、ボストン在住

「通産官僚から米国弁護士へ アメリカンドリーム 8000 日」

服部さんは、代表世話人である鈴木とは高校と大学とが同窓である。違いは服部が優等生で通って来たのに対して、鈴木は大した成績ではなかった点である。しかし後半の人生では海外で世界を相手に仕事をしてきたという共通点を持つ。

大学卒業後キャリアーとして通産省に入省し、内閣大臣官房や通産省特許庁審査官など要職をこなしていたが、日米特許戦争に奮起して通産省を辞め単身アメリカにわたり、40歳にしてアメリカの名門大学に入りなおした。法学の博士号を取得し、特許を扱う弁理士、弁護士として大活躍している。今回は失敗談をはじめ、その間に学んだことなどを中心に御話戴いた。

現在はボストンで沢山のアメリカ人弁護士を擁する弁護士事務所を率いている。

何事も恐れない前向きな姿勢とチャレンジ精神とに溢れ、又そのエネルギーに圧倒される思いであり、皆さんに沢山の元気を与えてくれた。

“やって出来ない事は無い。区切りの年齢毎に有るべき姿を自分で作り、その目標に向かって人生を送りたい。夢を持ち、それに向かって努力し、成功させよう。”と意気軒昂であった。

(11) 三坂 重雄さん 前シャープ(株) 筆頭副社長

「達成感こそ活力の原点 ～エイジラン達成の企業人」

今のシャープを作ってこられた三坂様より、仕事面で指導してこられたシャープのオンリーワン戦略についてお話をいただき、さらに60歳を越えてからも毎年挑戦して来られたマラソンランナーとしての自分の世界とその達成の喜びについてお話を戴いた。

フルマラソンを年令と同じ回数だけ走る事をエイジランといっておられ、これからもこの達成に向けて体を鍛えながら挑戦を続けるというお話に、聴衆の皆さんは元気を貰いました。

スリムで黒く焼けた肌はとて70代とは思えない程の若さは、普段のトレーニングの厳しさと実行力を物語っていました。

“仕事においてもマラソンにおいても挑戦し、なおかつ達成し続けることが人生の喜びでとなる。より高い目標を目指し、その成功の為に不断的な努力を続けるそのことが、とりもなおさず人生そのものを豊かにすることになる。”とお話された。

(12) 米谷 浩さん 元西武百貨店社長、そごう百貨店社長、等を歴任

「これからの百貨店」

米谷さんは流通業の世界で最高に良い時期と、再編を含む難しい時期を経営者として生き抜いてこられた。流通の将来についての強い思いと、回復のシナリオが描けないもどかしさのようなものをお話の中から感じる事が出来た。

“流通業の将来は小手先の解ではなく、日本の国自身を活気付けていく事こそが、全ての発展の基である。今や体力勝負の時期に入ったのだ。”と見通されている。



写真3 左、米谷講師との懇親会風景

(13) 白木原 康則さん LEC食品開発研究所 顧問、(有)シラキハラ食研 代表取締役社長

「育てる、食べる、免疫力をつける」

有機栽培で世界一優秀な野菜を作ろうという事で、日本中を回りながら農家を指導し、日本農業の自立を図る作業を続けている白木原氏。その白木原さんから農業の重要性を熱く、熱く語っていただいた。新しい方法で作られた美味しさ一杯の野菜を沢山持参され、その場で食べると言う、試食会も行った。

“農作物の国産化比率を上げることは重要なこと。世界一品質の良い野菜をつくることも可能で、美味しいけれど高いという野菜をどのように市場に定着を図るかが問題である。自分は最高の品質の野菜を農家に作ってもらうべく、全国を回って指導を今後も続ける。”とおっしゃっていた。

余談になるが、会の終了後この高品質の野菜を、会員制で国内外に売ってみようと言う、仲間が出来、実際の販売も開始した。海外にはタイに何度か現物を持ち込み検討もした。結果としては、色々な理由で、新鮮が売り物の野菜を販売する難しさを克服できず、購入してくださった沢山のサポーターに惜しまれながら、中断に追い込まれた。



写真4 美味しさ、栄養価全て特上

(14) 八重樫 春樹さん 川村記念美術館顧問、名古屋芸術大学教授

「無題 untitled」

人生の全てを、好きであった美術の研究に打ち込み、特に西洋美術の研究ではわが国屈指の専門家として美術館の学芸員や大学の教授等をしながら研究を続け、その成果を発表してきている。

美術史家としてもっとも楽しいことは、画家が命を懸けて描いた作品をその画家の気持ちになって、何を主張したかったのかと言ったことを理解できたときである。

興味がある、面白い、知りたいと、言った気持ちの赴くままやって来たことが仕事になり、現在に至っている。就職を前提として学校の選考を選んできた人とは、全く逆の生き方をしてきた訳で、そんな人生の送り方の楽しみを色々お話戴いた。

所謂、仕事一辺倒でない、人生の生き方を奢るでもなく、自然体で淡々と話され、多くの参加者と全く分野、考え方の違う独自の生き方の素晴らしさを伝えていただいた。

“世の中の損得の評価とは無関係に、自分のやりたい自分の知りたい世界を深め、その道をやり続けることで人生の生きがいと満足感が得られる。”と話された。

(15) 関口 雄祐さん 理学博士、千葉商科大学講師

「イルカから睡眠環境の研究へ…イルカを追った学生時代」

科学雑誌ネーチャーと言えば生物の雑誌として最も格も格調も高く、ノーベル賞クラスの論文が載る事で有名だが、この雑誌に若い研究者である関口さんの論文が掲載され話題となった。今回はこの論文の元になったイルカの研究と記事が掲載された経緯などについて、大変珍しい話を幾つも教えていただいた。

イルカの睡眠の研究が、将来自動車事故の大幅減少に繋がるかも知れない話など、具体的のために成る話をしていた。

“動物研究の基本は何と言っても現場主義。毎日毎日 確りその動物を見て観察し、常識とか既成の概念に惑わされずに小さな動きも見逃さないことが大切。その生物に愛情を持ち、確り観察することで、思いもかけない大発見が出来るかもしれない。”と興味深いお話であった。

(16) 西尾 繁子さん SGE 社長、女性企業経営者…コーディネーターは野村総合研究所の松枝 修さん…

「新年の抱負、今年は何をしよう！」

若くして離婚、子供4人引き取って育て始め、子供の居る母親に企業は門戸を閉ざし、社会の厳しさを嫌と言うほど味わう。生きる糧を得るため、玄人筋の人に物を売る商売を開始。夜の女性の考え方などを深く研究し、独特の

商法でかなりの収入を得る。その後色々な事業を展開し、一等地にいくつかの土地を持ち、現在の会社 SGE も年商10億円を超える会社に成長させ、さらに事業領域を広げている。そこまでに至った事業成功のツボや、失敗のお話。40歳を超えて社長をしながら大学に再入学、工学部で経営工学の勉強をする話など、何時でも前向きで、子供さん4人を立派に育て上げ、最近では社会貢献の活動を始められている。西尾さんの活動を、松枝さんの軽妙なコーディネーターとしてのお力で、十分引き出して戴いた。

とても他では聴けない本音の一杯詰まった素晴らしいお話でした。

“全ては人間の世界。どんな時もどんな人にも、その人の身になって考える。考えるときは徹底的にこれ以上無いと自分で考えられるだけ深く、確り考える。そうして、その人の身になる解を出す。損得は考えない。いつか利益は付いて来る。” とのこと。

(17) 田中 稔子さん 七宝工芸家、平和運動家（原爆被爆者）

「ART de PEACE・七宝でメッセージは伝わるか？」

7歳のとき広島で被爆されたのだが、そんな暗い過去が有るとは思わせない明るく素敵で、それまで工芸品とされていた七宝焼きを世界に認めさせ、芸術の域にまで高めた七宝焼きの大家である。日展無審査までなられた大きな七宝の作品の写真を沢山ご持参戴き、部屋の後方に張り出して皆さんにご覧いただいた。

七宝の大作には平和へのメッセージが託されているものが多く、作者の平和への強い思いは多くの人の感動を

呼び、ロスアンジェルス、グリフィス天文台、バチカンの法王庁などにも作品は展示されていると言う。田中さんは国際的にも活躍されており、アメリカの大学で七宝の講義をされたこともある。最近では核廃絶の為に行動を起こされていて、国連などで原爆の被爆体験の証言なども行っている。そんな田中さんの生き方、凄い行動力、明るく、やさしいお人柄などをよく整理された形でお話しいただいた。

原爆症のため苦しいことも有ると思うが、全てが前向きで、参加した皆さんに大いなる元気を与えると共に、大きな感動の輪が広がった講演であった。

“ピカソのゲルニカのように優れた芸術作品には、その芸術性の持つ主張は必要である。しかし主張は表舞台でデコデコしくやるものではなく、さりげなくしかし確りと、段々と心にしみるような表現が大切と思い、作品の中で実行している。” と締めくくられた。



写真5 田中さんが作られた、七宝作品の写真例

(18) 田矢 盛之さん 応用地質株相談役、元同社代表取締役社長

「地質コンサルタントの生き立ちと社会に果たす役割」

地震大国日本、その中で安全と安心を確保することは如何に困難であり、お金と時間と知恵が必要かを、歴史的資産の多いヨーロッパとの比較などを例に、わかりやすくお話戴いた。少し前までは言葉さえ掛けてもらえなかった地質コンサルタントと言う仕事の重要性を社会に認識させ、それを業とする東証1部上場会社にまで育て上げ、その業界作りをし、日本のインフラをより強固にするため何をしてきたのか、と今後何をしなければ成らないかなどをわかり易く講演戴いた。

“日本は、国土そのものが世界でもっとも脆弱と言っても良いほど複雑な土壌の上にある。その認識の下、将来にわたって安全安心を確保するにはさらに研究を重ね、その土壌の持つ特性をよく理解したうえで、日本のインフラ整備や建物の建設をしなくてはならない。” と抱負を語られた。

以上がこれまでの講演者と講演概要の紹介です。

次回は平成21年11月に理学博士 三田 一郎さん（日本学術会議委員、神奈川大学教授、元名古屋大学教授、元東京大学教授）をお願いする予定である。

実に多種多様、素晴らしい方にお世話になったものである。

講演者を国籍別で言うと、日本人、アメリカ人(台湾人)、イギリス人、タイ人 となる。

職業は、大学の先生…4、弁護士…1、芸術家…2、食品関係…1、服飾デザイナー…1、日本以外のグローバル企業経営者…3、日本のグローバル企業経営者…3、グローバル調査会社経営者…1、南米企業家…1、女性経営者…1、温泉評論家…1、男女比率は15対4である。

講師の出身大学で行くと、早大…2、東大…3、武蔵工大…3、慶応大…1、東工大…1、阪大…1、名古屋大…1、広島大…2、農工大…1、宮崎大…1、青学大…1、杉野…1、米国大学院…4、タイ国立大学…1、イギリス陸軍大学…1、で、非常に幅広いことが分かっていただけだと思う。

出来るだけ偏らず幅広く、世界中から講師を招きたいと考えてはいたが、予算を持たないボランティアの活動でここまで出来たことは望外の幸せであります。ご協力戴いた方々には感謝の気持ちで一杯です。

これらの講演を聴いた方々の感想文、当日のスナップ写真数枚、講師のお名前、所属、略歴などを、第1回から第18回までの全てが「一期一会」のホームページに収納されて居ります。

次回のご案内等も下記のホームページに記載されております。



写真6 聴講メンバーの様子

www.executive-consulting-j.com/ii

何かの機会に御覧いただければ幸いです。

．5年間で解った一期一会の役割

一期一会をはじめたのは日本を元気にしたい、若い人に夢が実現することを伝え夢を持つ若い人を増やしたい、と言った事からでした。参加者の比率を若者 1/3、中堅 1/3、熟年 1/3、と当初考えていたのは1年間ぐらいしか続きませんでした。

口コミでしか参加者を増やして来なかったのが、熱心な学生が卒業してしまうと、学生の参加者数がどんどん減ってきました。いくつかの大学の学生に声をかけてみましたが、成績と就職にしか興味を持たない大学生が多いことに吃驚しました。

現在の参加者は若者20%、中堅 40%、熟年 40%、でしょうか。

少し参加者の平均年齢が上がってしまいましたが高齢化社会では当然のことかも知れません。

人間には生物年齢と精神年齢があり、精神年齢で行くと若い人が50%を越えるでしょうか、そんな会合が続いています。

若者を増やすために色々試行錯誤しています。例えば、．学生は参加費を安くする、．若い講師を呼ぶ、．若い人が興味を持つ話題を導入する、などです。それが成功しているとは言えませんが…。

メンバーの方の満足度を上げるために、．要望のある話題をなるべく優先する、．人間的魅力のある、生き方名人の、講師を探す、．おざなりな紹介はしない、．代表世話人である鈴木が講師と必ず数時間のお話をさせていただき、会の趣旨をご理解いただいた後に講演内容を決めていただく、．交流が出来てよかったと思える食事会を開催すべく行動する、などが私の心がけてきたことでしょうか。

ある時はこの忙しいのに、こんなに一期一会に時間を割いていたのでは会社がおかしくなるのではないかと。会費は戴いているが、実質持ち出しの会を今後も続ける事が出来るのか。講師が見つからなくて毎日悩んでいた、講師の候補に何度お願いしても断られたり、何日も返事が来なかったり、会場が確保できなかったり、参加者がうるさいと交詢社のメンバーからクレームを受けたり、思い出すのが嫌に成るほど沢山の出来事がありました。

このようなことで日本を元気に出来たのでしょうか？ 解りません。しかし良いお話を聴き感動し、納得して自分の行動様式を変えたという方もいらっしゃいました。毎回この会合を楽しみにして下さっている方が幾人もいます。是非会を継続して欲しいと言われる沢山の方がいます。

それらの事実から、小さな、ほんとうに小さな事かもしれないが、何か世の中を良くする為に役立って来たのではないかと実感しています。

・ 一期一会の今後の進め方

私個人の人脈を使ってやってきた一期一会ですが、今後この形で素晴らしい講師に来ていただけるかどうかは自信がありません。

特に来年から大学院で学生に講義をする機会を戴き、さらに仕事が忙しくなる予定であり、その点も心配です。

今後は世話人の方にも講師選定についてご協力を戴きながら、出来るところまで会を継続するつもりです。

しかし いずれの日にか、一期一会が私のライフワークに成っている、という予感がします。このご縁を大切に、皆さんに感謝しながら命ある限り継続して行きたいと思っています。

・ あとがき

坪井さんから戴いた原稿の締め切りは、2009年8月31日、本日であり、夜10時半時点で、このあとがきを書いています。

昨日は戦後50年続いてきた自由民主党が破れ、政権交代が国民の総選挙という形で実現した画期的日でした。

この事が日本を元気にする為に貢献してくれるのだろうか？ 誰も分からない。

テレビの街頭インタビューでは誰もが不安と期待とを言っている。

私は民主党支持者ではないが、政党に関係なく今回の初めて示された民意を何か嬉しく思っている自分を発見している。

そうしている今、私は“日本を元気にしたい”と何故 強く思ったかを、このまとめの中でまだ述べて居なかったことに気づいた。これを “あとがき” に述べて、私の今回のまとめとしたいと思う。

40歳後半まで、日本の伝統的電気メーカで仕事をしてきたこと、会社を元気にすること、皆の雇用を守ること、良い製品を提供することなどを目標に仕事をしてきたが、会社の実態には改善が見られず、個人で努力してもそのことが会社の総合力の強化に結びつかないもどかしさを感じていた。

その後、アメリカ企業とオランダ企業とで仕事をさせていただく機会を戴いた。

- ・日本人は総じてまじめで良い仕事し、良い製品を作っているが付加価値が取れていない。
 - ・日本人同士で無益な過当競争をする。
 - ・戦略性が全く劣るので海外のメーカに殆ど大切な部分で負けてしまう。
 - ・製造業が構造的問題を露呈しているにも拘らず、抜本の手が打てて居ない。
 - ・世界と戦い、負けの中から学んで勝つ方法を見つけた人たちも退職してしまい、次の世代を如何に育てるかの手が打てて居ない。
 - ・このままでは、日本はどんどん衰退してしまい、人々が不幸になるのではないかと？
 - ・多くの老人仲間が、若い人を見て、兎角批判している姿は、醜く嫌いです。
 - ・口ではなく、実際の行動で、小さな、小さな一歩を率先して示したかった。
- こんな思いが“日本を元気にしたい”と思った主な理由です。

民主党政権ではやるべき事を、このうちの幾らかでも、実行してくれたらと期待しています。

今後も引き続き私に出来ることを、良いと思った小さい、小さいことを蔑ろにせず、実行していく所存です。

アンケートの例

第17回一期一会 アンケートコメント 講師 田中 稔子氏 2009.4.18

1. 講師の話は良かったですか？

- ・ 大変に素晴らしい講演でした。気負わずに話されている中に秘めた思いを何度も感じました。デザインが素晴らしく絵として観ても最高です。
- ・ 良かったです。現代の芸術家の好奇心、寛容さを強く感じる事ができました。今後も世界を相手にますますご活躍してください。
- ・ プローチ等でしか七宝を見た事はありませんでしたが大変な大作を拝見し、写真ではなく実物をと、実際に製作する意欲が芽生えて参りました。(自分では趣味のかこいを超える事は無理ですが…)
- ・ 田中稔子様のお人柄がとても魅力的でオーラ、笑顔、作品に現れているように感じました。私も田中様のような素敵な女性になりたいと思いました。
- ・ とても素晴らしいお話でした。作品も良かったです。物事への取り組みや考え方に参考になりました。
- ・ 今まで七宝という、つばやアクセサリーのイメージが強かったのですが、もっと幅広いメッセージをこめられた作品を作り出すことが出来る事がわかって楽しく聞かせていただきました。
- ・ 最高に！！
- ・ 「被爆者としての責務」という言葉を使われていたが45年8月6日を広島で経験された人々だけではなく、私たち日本人を世界に対象化した際に誰もが考えていかなければならない命題と感じた。戦後50年して初めて“その日”を直に描いた作品を作られたとのことだったが、「50にして天命を知る」との言葉を思った。
- ・ 田中さんのお人柄と天啓によって作品が作られていると思います。パワフルな人生で、ご活躍と健康を心からお祈りいたします。
- ・ エネルギーが豊富な田中さん、これからもご活躍くださいませ。米国でオバマ大統領にしっかり物を言って来てください。
- ・ とても良かったです。類まれな才能を前向きな姿勢でみごとに開花させられた奥にある人生観、平和を願う叫びのようなものを感じました。素晴らしい作品に万歳！
- ・ 大変良かったです。控えめでお人柄が大変よい。
- ・ 人生論と七宝についていろいろとお話いただき大変に参考になりました。ありがとうございました。世界が平和でありますようにと考えずにはられません。幸福に現在、未来を送られるように願っています。お元気で！
- ・ 技術面での難しさは感じるが、予備知識が無く質問しにくかった。人生経験豊富、積極的なアクティブ指向は人生の生き方のお手本となる。
- ・ [単純明快な生き方]
- ・ 大変興味深く拝聴させていただきました。
- ・ 短い時間でとても深いお話を頂き大変楽しかったです。年を重ねてもまだまだ新しいチャレンジをされている田中さんがまぶしかったです。
- ・ 田中さんは大型パネルの七宝の世界を創められた方で、日本を代表する芸術家でありながら謙虚であり、



写真7 中央、田中講師

年を重ねられても新しい自分への挑戦をされている姿はとても参考になった。力をいただいた。

- ・自身の人生を振り返りながらのお話と作品紹介もお聞かせいただき、2時間があっという間でございました。船のときから評判はお聞きしていましたが実際にお会いしまして触れる事ができ本当に楽しかったです。
- ・前向きに生きていらっしゃる田中様のお話から元気をいただきました。前向きに生きる秘訣の一つに「反省しない」という話がありましたが、私も周りから「反省しているのか」と言われるくらい反省しない性格で親近感が湧き一層勇気が出ました。本当にありがとうございました。
- ・これからも良い出会いやひらめきから、良い(感動を与えてくださる)作品を制作してください。
- ・船内でも同じですが田中講師のざっばらんなお人柄になお一層好感を抱き、また芸術に関する姿勢、感性の深さにも感動いたしました。本当にありがとうございました。NYの国連でのご活躍も心よりエールを送らせて頂きます。丁度同じ時期にNY、ボストンにボランティアで渡米しておりますので。
- ・前向きなお人柄と、継いで行くことに対してのお考えに感銘を受けました。ありがとうございました。

2. 講師の話の長さはどうですか？

丁度良い・・・ 21名、 短すぎる・・・ 2名

3. 講師の著書、作品、プロジェクターの写真についてのご意見

- ・大変勉強になりました。
- ・皆平面で立体感がわからないので、本物を見たい。
- ・すばらしいの一言です。
- ・プロジェクターの写真で作品の内容がよく分かりました。
- ・プロジェクターでの写真にも詳しい説明がされ良かったです。いつか大作に会いに行きたいです。
- ・本は事前に席に用意してあってもよかったかもしれない。



写真8 ほぼ満席の聴講席

- ・本だけでは分らない丁寧な説明があったおかげで納得してみる事ができました。
- ・七宝というものを初めて拝見しました。とても綺麗で神秘的で感動いたしました。
- ・著書と比べながら見せて頂きましたが、もっと前の席で拝見したら良かったと思いました。
- ・風雨にも強いし、大きさも色々あるようですので、個人の家庭の内側、外側のインテリアとしてもっと普及するとよいと思いました。
- ・良かったです。
- ・作品はカラフルで繊細、影よりも光の部分が印象的に感じた。
- ・素晴らしい作品にびっくりしました(創造性)
- ・とても見やすかったです。
- ・事前準備がしっかりしていたので七宝の良さをかなり理解できた。美しい。
- ・ご著書を頂きましてありがとうございました。大切にいたします。
- ・機会を作り生の作品に是非お目にかかり、改めて鑑賞させていただきたいと思っております。
- ・Message性にあふれた作品で感受性が刺激されると感じています。
- ・ひとつでも実際の作品を飾ればその良さがもっと知れたような気がします。

4. 司会進行に関してコメントがあれば

- ・ 別にありませんが大変良かったと思います。
- ・ 鈴木様のコメントも我々が聞くことができ、丁度良いと思います。
- ・ 話題も適切で素晴らしいと思いました。
- ・ OK
- ・ opening の説明が丁寧で分りやすかったです。
- ・ 会の趣旨、向かう目標が簡潔に説明され分りやすかった。一期一会の会に今後も出席できるのでしょうか？出来れば参加してゆきたい。
- ・ 一期一会らしく鈴木様がお話をされるのはよいと思います。
- ・ 場違いの場に参加させて頂きましたが、リラックスしながら時を過ごせる会の進行と空気でした。ありがとうございました。
- ・ うまくリードして進めていくのですすがだなと思いました。
- ・ 講演の前の説明がやや長かったように思われたが、あとは適切に進められていた。2名良かったです。
- ・ やさしい司会がとても良かったです。笑顔が親しみを感じさせ、質問もしやすかったのでは……
- ・ 控えめでとても良かった。
- ・ いつも感謝しております。

5. 今後聞きたい話の分野について

- ・ 少子化、老人介護、福祉、仏教、裁判制度、マスメディアのあり方
- ・ 何でも良いですが、人生論は聞きたいと思います。
- ・ 本物を見に行きたい(大物)
- ・ 音楽界で活躍されている方(影の実力者、無名の方でも頑張っておられる方等)
- ・ 曾野綾子氏
- ・ 宇宙(有限無限、ブラックホール?)について
- ・ 会社起業家の方の体験談
- ・ 中小企業の経営に役立つ話など
- ・ IT, 通信分野のお話が伺えましたら尚幸いでございます。
- ・ いろんな分野の方のお話を伺いたいです。
- ・ エコ、環境問題、世界平和、農業

6. あなたの職業は？

会社経営3名、会社役員2名、会社員4名、教育関係者2名、学生1名、主婦4名、その他6名

7. 伝えたい事、何でも！

- ・ 食いしん坊なのでメニューの種類がもう少しあったら…なんて思いました。わがまま言ってごめんなさい！
- ・ 今回もためになる会を開催して下さりありがとうございます。次回も楽しみにしておりますので是非よろしく願います。
- ・ いつもお声かけ頂きまして本当にありがたく存じます。又、次回も参加させて頂きましたら光栄に存じます。
- ・ 田中先生は70才とはとても思えない程若く素晴らしい女性です。
- ・ 今後も良い会を開催してください。
- ・ 食事の選択肢が増えるでしょうか？

以上 ご協力ありがとうございました。